

昨年8月の初め、耳のあたりに痛みが出始めたのが、この病気の始まりでした。すぐ大きな病院で診てもらったのですが病名がわからず、歯の方では、耳の方では、と次々に病院を渡り歩くことになりました。結局病名が、ヘルペスとはっきりした時には、舌に裂け目のような窪ができ、寝ても起しても頭、耳、咽に激痛がはしり、泣いてばかりいました。食べ物も口にできず、なんとかすり鉢ですり潰した刺激のないものを咽に流し込んでいました。もう死にたいと何度も思ったことでしょう。そんな時に出会ったのが朴先生でした。朴先生は「薬と注射をしていきましよう、頑張りましよう、私も頑張りましよう」と握手をしてくれました。わらにもすがりたい気持ちになっていました。私には、とても心強い言葉でした。

たくさんの患者さんが、ベットに横になっておられる部屋に案内され、私も横になりました。首に注射は怖いなあと思いましたが、この痛みが少しでもましになるなら我慢しようと思いました。先生は超音波を見ながら注射をしてくださいました。ほんのわずかにクリとしただけでした。

あれから1年まだ口の中は苦く塩辛くなりますが痛みは良くなりました。どうなることかと不安でいっ

ぽいだった1年前を笑って話せるようになりました。先生も「来た時は泣いていましたね」と笑って話してくださいます。

朴先生や皆様には大変お世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。「戻って来た時は、又お世話してくたさいね」とお願いすると、先生は「いいよ」とのお返事、心強く思います。本当に有難うございました。